
彼にはかなわない

泉ユキ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

彼にはかなわない

【Nコード】

N6787K

【作者名】

泉ユキ

【あらすじ】

ヒバピン+ランボで、十年後設定。

短くてなんかベタ甘い。

(前書き)

REBORNの二次創作です！
駄目な人は見ないでね！！

私が彼を好きになったのはもう十年も前のことだ。

始めは、師匠と似ているという、ただそれだけだった。

だが、彼を目で追っていくうちに、彼の魅力に引きずり込まれていったのだ。

「ねえイーピンまだあの人のこと好きなの？やめなよあんな怖い人」
「うるさいなア、ランボには関係ないでしょ」

今、私は並盛町でも美味しいと評判の喫茶店にランボと二人で来ていた。

「だって、今イタリアにいて会えないんでしょ？ずっと想ってたってしょうがないじゃん」

「そういうデリカシーのないとこ、全然変わってないよね」

私とランボは幼なじみで、幼い時から一緒にいたこともあり、ランボを男として意識することはないが、ここ数年でランボは随分モテるようになったようだ

「話変わるけどさあ、イーピンって、最近モテてるって知ってる？」

「知ってるよ。ランボ最近女の子とつかえひつかえだもんね」

「違うよ。俺じゃなくて、イーピンのこと。」

「は……？」

「知らないよね。イーピンに近づく奴は俺が消してきたから」

「変な冗談やめてよね、だいたい何でランボがそんな事……」

「イーピンのことが好きだからだよ」

「え……」

何を言ってるんだ？

ランボが私のことを好き？

冗談でしょ？

「ねえ、いい加減俺をみてよ俺はずっとイーピンを見てきたよ？一度だけでいいから、俺を男として見て？」

そんなの・・・

そんなのいまさら・・・

「無理だよ」

『えっ！？』

聞こえてきた声は私の声でもランボの声でもなかった
低くて、鋭くて。

でもずっと聞きたかった声……

「行くよ」

「えっ！？雲雀さんっ・・・？」

声の主は恋い焦がれて来た想い人。

「君には渡さないよ」

「え、ええ？今なんて・・・って、うわあっ！」

気が付いたら私はひばりさんの肩の上で、天地がひっくり返った視界のまま連れ去られていた。

「・・・あの人にはかなわないア、いいとこ全部取って行っちゃ

うんだから」

「あ、あの！雲雀さんどうしてここに？今イタリアのはずじゃ……」
「昨日帰ってきたんだ。だけど君の顔が浮かんで消えなくて、せつかく久しぶりに和食だったのに手付かずだったよ、どうしてくれるの？」

無茶苦茶なことを言っているのは私にだってわかってる。

でも、それでも構わないくらい、私は彼が好きだった。

これは夢だろうか？

これが現実なのなら、私は少し自惚れてもいいのだろうか？

これは、つまり……

「君のことが好きだよ」

やっぱり、夢かもしれない。

十年恋した相手から、こんな言葉が聞けるなんて。

「返事はもちろんイエスだよね？」

「……はいっ／＼／」

十年の恋が実った、ある日の出来事……

(後書き)

初ヒバピン!

妄想が爆発してますねっ!

いつものことだけどネ!

感想いただけると泣いて喜ぶので、
情けをかけてやってください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6787k/>

彼にはかなわない

2010年10月28日08時14分発行